

2016 年行事予定

- 3月25日(金)～ 第26回春季大会
26日(土)
3月25日(金) 第1回全国幹事会
3月25日(金) 第6回生涯教育講習会
3月26日(土) 第48回総会
5月22日(日) 第85回教育セミナー
7月15日(金) 第33回臨床検査振興セミナー
9月1日(木)～ 第2回全国幹事会
4日(日) 第49回総会・講演会
共催シンポジウム
第5回臨床検査を学ぶ
若手医師の集い
11月11日(金) 臨床検査の日(日本臨床衛生検査技師会：全国検査と健康展)
12月17日(土) 第2回常任幹事会

【目次】

- p.1 Fantasyが始まる？
p.2 事務局からのお知らせ、平成27年度会長・監事選挙結果、第47回日本臨床検査専門医会総会報告、平成27年度総会講演会報告、第4回「臨床検査を学ぶ若手医師の集い」報告、「全国検査と健康展」報告、平成28年度第26回春季大会のお知らせ
p.3 平成28年度第6回生涯教育講演会のお知らせ、平成28・29年度役員のお知らせ、平成28・29年度各種委員会委員のお知らせ、平成28年度行事予定、平成28年度会費振込みのお願い
p.4 住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について、若手が望む臨床検査医学会(学術集会)のあり方「臨床検査を学ぶ若手医師の集い」から、【会員の声】RCPC—もう一度ルーツを考えてください、私というベルソナ
p.5 臨床検査専門医会の先生方への感謝と自己紹介
p.6 臨床検査専門医として、編集後記

会員の皆様へ

広く「会員の声」を募集しております！
テーマは自由、文字数も自由です。
是非ともご意見をお寄せください。

【テーマの例】

- ・自己紹介や検査室のご紹介
- ・様々な技術・ご経験のご紹介

投稿方法：日本臨床検査専門医会事務局
まで、メールにてお送りください。
E-mail: senmon-i@jaclp.org

ご寄稿をお待ち申し上げます。

巻頭言

社会医療法人・里仁会・興生総合病院
藤原久美

Fantasyが始まる？

検査専門医を取得した独り病理医が臨床検査科を運営した場合、専任性が認められにくく、管理加算 IV の取得が困難であると考えられています。しかし特殊な状況下においては全く別の視点から天の恵みの如き管理加算が与えられる事があります。天然系オバカ病理医の友人 F が検査専門医を志した直接要因は内科医の大量撤収と技師長不在です。ある朝、職場に赴くと、技師長が野球賭博で逮捕され、検査室には、魔の昭和46年卒・衛生検査技師(主婦)1名、12年下の彼女、同い年の臨床検査技師(主婦)2名、以下10年の年齢差において10名前後の臨床検査技師(うち独身男性2名)が残されていました。技師長を公募しましたが、適任者が現れず、一同悶々。彼女はネットで公立医科単科大学の検査医学講座を検索、独り医局長兼その他諸々を背負って立つ検査専門医 Dr. KC に出会います。親切な事に彼は面識のない彼女に付属病院の主席卒業生からなる臨床検査技師軍団に頼んで2週間×冬期6ヶ月の特訓コースを set up して下さいませ。(※注；田舎の共通項として医療機関も忙閑に季節差あり)彼女が検査専門医を得た後、始めたのは、月1回の検査適正化委員会とヒヤリハット報告励行ぐらいです。

総じて臨床検査技師の年齢が若く技師長がいない。病理医が若葉マーク検査専門医として現場&法的責任者を主張し、他にそれらしき人物が見当たらない。このような状況で「管理加算で救急医療現場で研修医により過剰になりがちな検査を補填したいの。だって試薬をケチるとか科学的にナンセンスでしょ？」を呪文の様に繰り返し、彼女は必要なアイテムを get できてしまったのです。数年後、周囲の不安を余所に複数名が臨床検査技師の長として相当年齢に達した時点で、彼女は指名権を放棄、実験的に技師長選挙制を導入、結果、一長一短と判明、幹部の非難轟々を招いてしまいました。現在の彼女は教育に関連した派遣業務にも制約がかかる懸念があるため、加算 IV 申請は諦めたのだとか。

日頃より働きの悪い全国幹事として誠に申し訳なく、今回原稿を引き受けましたが、友人の噂話として失笑して頂けたらと願います。尚、推奨 BGM♪ Fantasyが始まる>動画クリックです。

JACLaP NEWS 編集室 増田 亜希子(編集主幹)

〒113-8655 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学医学部附属病院 検査部内

TEL: 03-3815-5411 内線 37477/Fax: 03-5800-8806

E-mail: amasuda-ky@umin.ac.jp

【事務局からのお知らせ】

《会員動向》

2016年1月15日現在数745名、専門医599名

《新入会員》(敬称略)

朝比奈 彩：静岡赤十字病院検査部
藤井 聡：旭川医科大学病院臨床検査・輸血部
岩泉 守哉：浜松医科大学第一内科

《所属・その他変更》(敬称略)

金子 誠：旧 東京大学医学部附属病院検査部
新 山梨大学医学部附属病院輸血細胞治療部
茂久田 翔：旧 広島大学大学院 医歯薬保健学研究所
新 スクリプス研究所(米国)
井上 裕二：旧 山口大学医学部附属病院医療情報部
新 JCHO 徳山中央病院 病院長

《退会会員》(敬称略)

木下 亀雄
松原 藤継
山口 惠三
水島 淳
佐藤 豊二

《訃報》(敬称略)

櫻井 宏治 先生 2014年8月15日ご逝去
石井 暢 先生 2015年10月31日ご逝去
島田 信男 先生 2015年11月4日ご逝去
三輪 淳夫 先生 2015年12月6日ご逝去

【平成27年度会長・監事選挙結果】

平成27年度会長・監事選挙(任期平成28・29年)は以下の結果となりました。

1. 会長選挙結果

投票総数：241票、有効投票数：234票、無効投票数：7票
登 勉：227票(97%)
白 票：7票

2. 監事選挙結果

投票総数：466票、有効投票数：466票、無効投票数：0票
1位：高木 康 33票
2位：佐守 友博 27票
次点：松尾 収二 17票
白票：40票

【第47回日本臨床検査専門医会総会報告】

第47回日本臨床検査専門医会総会は2015年11月19日長良川国際会議場さらさーらにて開催されました。

審議事項

第一号議案：平成27年度二次補正予算について
第二号議案：平成28年度予算案について

第三号議案：有功会員、名誉会員の推薦について

第一号～第三号議案は承認されました。

なお、名誉会員・有功会員として承認されたのは以下の先生方です。

名誉会員

中原 一彦先生、水口 國雄先生、宮澤 幸久先生

有功会員

石原 明德先生、入江 康司先生、岡野 匡雄先生
園部 宏先生、堀川 龍是先生、山口 惠三先生

報告事項

1. 平成27年度会長・監事選挙報告
2. 平成27年度中間会計報告
3. 各種委員会等報告
4. 臨床検査医学会学術集会関連行事
5. 第26回春季大会について

【平成27年度総会講演会報告】

第47回日本臨床検査専門医会総会に引き続き長良川国際会議場において総会講演会が開催されました。本年は宮崎彩子先生(兵庫医科大学臨床検査医学)、河野誠司先生(神戸大学医学部臨床検査医学)に「専門分野別 Q&A システムを中心とした臨床検査専門医会ネットワークシステムについて」ご紹介いただきました。

新システムは2016年4月運用開始が予定されています。

【第4回「臨床検査を学ぶ若手医師の集い」報告】

第62回日本臨床検査医学会学術集会の特別企画として、第4回「臨床検査を学ぶ若手医師の集い」が2015年11月21日、岐阜都ホテルにて開催されました。本年度は企画運営に係わる臨床検査専門医とともに16名の若手医師の参加がありました。今回は、「若手が望む臨床検査医学会(学術集会)のあり方」をテーマに、グループディスカッションで若手医師の声を直に聴く試みが行われました。

【「全国検査と健康展」報告】

11月11日(水)「臨床検査の日」に合わせて「全国検査と健康展」(日本臨床衛生検査技師会主催)が全国各地で開催されました。平成27年度も「検査説明・健康相談」への協力をを行い、10月11日～11月29日まで21会場に35名(のべ41名)の会員がボランティアとして参加されました。ご協力ありがとうございます。次年度もより多くの先生方のご協力をお願いいたします。

【平成28年度第26回春季大会のお知らせ】

大会長：杉浦 哲朗先生

(高知大学医学部病態情報診断学 教授)

期 日：2016年3月25日(金) 16:40～17:40 特別講演
18:00～20:00 懇親会

26日(土) 9:00～15:00 春季大会

会 場：3月25日：ホテル日航高知 旭ロイヤル

3月26日：高知市文化プラザかるぼーと

参加費：3,000円 懇親会費：4,000円

プログラム詳細は当会 Web ページでご確認ください。春季

大会講演は日本専門医機構 臨床検査専門医認定・更新に係る講習として認定されています。すべての講演を聴講すると専門医共通講習(指導医)1単位、臨床検査領域講習 計3単位の認定が得られます。指導医講習は開催予定が少ないため、2017年度から新制度専門医研修の指導医となる予定の会員は是非ご参加ください。

【平成 28 年度第 6 回生涯教育講演会のお知らせ】

春季大会に先立ち、平成 28 年度第 6 回生涯教育講演会が開催されます。本講演会はずべての会員を対象としたリスクマネジメントと検査室管理に関する講演会です。

本講演会は、日本臨床検査医学会のリスクマネジメントに関する講習会として認定されています。臨床検査専門医、臨床検査管理医の方は本講演会への参加により資格更新単位 5 点を取得することができます。また、本企画は日本専門医機構 臨床検査専門医認定・更新に係る「専門医共通講習(医療安全)」2 単位の認定されています。

日 時：2016 年 3 月 25 日(金) 14:30 ～ 16:30

会 場：ホテル日航高知旭ロイヤル

参加費：2,000 円

司会：慶應義塾大学医学部臨床検査医学 菊池 春人先生

1. 生理検査室の安全管理・精度管理

演者：帝京大学医学部附属病院中央検査部

古川 泰司先生

2. 輸血検査室の診療支援と安全管理

演者：東京医科大学八王子医療センター

臨床検査医学科・輸血部 田中 朝志先生

【平成 28・29 年度役員のお知らせ】

平成 28・29 年度役員として以下の先生が就任されました。

平成 28・29 年度日本臨床検査専門医会役員(敬称略)

会 長：登 勉

副 会 長：東條尚子(渉外委員会委員長)、本田孝行

監 事：高木 康、佐守友博

常任幹事：木村 聡(広報委員会委員長)、

佐藤麻子(全国検査と健康展担当)、

土屋達行(資格審査・会則改定委員会委員長)、

古川泰司(保険点数委員会委員長)、

三宅一徳(庶務・会計幹事)、

宮崎彩子(ネットワーク運営委員会委員長)、

盛田俊介(情報・出版委員会委員長)、

米川 修(教育研修委員会委員長)

全国幹事：浅井さとみ、五十嵐雅彦、上原由紀、大澤春彦、

萱場 広之、久川 聡、紀野修一、谷直人、

長井 篤、中村文彦、橋口照人、日高 洋、

増田亜希子、松下一之、村田哲也、柳原克紀、

横崎典哉、和田隆志

【平成 28・29 年度各種委員会委員のお知らせ】

平成 28・29 年度各種委員会委員が決定いたしましたのでお知らせします。(敬称略)

<情報・出版委員会>

盛田俊介(委員長)、出居真由美、清水 力、信岡祐彦、

福地邦彦、増田亜希子、吉田 博

<教育研修委員会>

米川 修(委員長)、浅井さとみ、萱場広之、東田修二、
宮崎彩子、村田哲也、山崎正晴、菊池春人(アドバイザー)

<資格審査・会則改定委員会>

土屋達行(委員長)、康 東天、菊池春人、下澤達雄、
谷口信行、田部陽子、松浦知和

<広報委員会>

木村 聡(委員長)、五十嵐岳、江橋正浩、菅野渉平、
高木潤子、田部陽子、千葉泰彦、古田眞智、増田亜希子

<渉外委員会>

東條尚子(委員長)、木村 聡、鯉淵晴美、小林 礼、
下澤達雄、長井 篤、村上純子

<保険点数委員会>

古川泰司(委員長)、浅井さとみ、清水 力、田中郁子、
細川直登、松下一之、佐藤尚武(アドバイザー)

<ネットワーク運営委員会>

宮崎彩子、河野誠司、佐守友博、鯉淵晴美、増田亜希子、
土屋達行(日本臨床検査医学会選出委員)

【平成 28 年度行事予定】

平成 28 年度 日本臨床検査専門医会の行事予定をお知らせいたします。

開催日時、場所の変更が生じる場合があります。変更があり次第 JACLaP WIRE、JACLaP NEWS でお知らせします。その都度ご確認ください。

平成 28 年

1 月 23 日(土)

第 1 回常任幹事会(日本臨床検査専門医会事務局)

3 月 25 日(金)～26 日(土)

第 26 回日本臨床検査専門医会春季大会

ホテル日航高知 旭ロイヤル、高知市文化プラザ かるぽーと

3 月 25 日(金)

第 1 回全国幹事会(ホテル日航高知 旭ロイヤル)

3 月 25 日(金)

第 6 回生涯教育講習会(ホテル日航高知 旭ロイヤル)

3 月 26 日(土)

第 48 回日本臨床検査専門医会総会

5 月 22 日(日)

第 85 回教育セミナー(慶應義塾大学)

7 月 15 日(金)

第 33 回臨床検査振興セミナー(東京ガーデンパレス)

9 月 1 日(木)～4 日(日)

第 63 回日本臨床検査医学会学術集会(神戸国際会議場)

第 2 回全国幹事会

第 49 回日本臨床検査専門医会総会・講演会

共催シンポジウム

第 5 回臨床検査を学ぶ若手医師の集い

11 月 11 日(金)

臨床検査の日(日本臨床衛生検査技師会：全国検査と健康展)

メイン会場未定

12 月 17 日(土)

第 2 回常任幹事会(日本臨床検査専門医会事務局)

【平成 28 年度会費振込みのお願い】

平成 28 年度の会費振込用紙を別途お送りしますので振込をお願い致します。尚、未納分のある会員の方々は合計額の振

込をお願いします(納入状況は振込用紙に記載してあります)。なお、平成 25 年度より、満 70 歳以上の正会員の年会費は、5 千円となりました(平成 24 年 11 月 29 日 会則改定)。

平成 28 年度年会費：1 万円
平成 28 年度年会費(平成 28 年 1 月 1 日現在、
70 歳以上の方)：5 千円
郵便振込み口座：00100-3-20509
日本臨床検査専門医会事務局

ご自身の振込み状況が不明な先生は、事務局まで E-mail または FAX でお問い合わせください。

過去 2 年間会費を滞納している先生には、Lab CP, JACLaP NEWS, 要覧の発送を停止いたします。悪しからずご了承下さい。

【住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について】

住所・所属の変更にもなって定期刊行物、JACLaP WIRE, 電子メールなどの連絡が届かなくなる会員がいます。勤務先、住所および E-mail address 等の変更がありましたら必ず事務局までお知らせ下さい。変更事項はホームページから【会員情報変更届】をダウンロードしてそれに記載し、FAX あるいは E-mail でお送りください。

<連絡先>日本臨床検査専門医会 事務局(水・土日祝祭日は休業日)電話・FAX：03-3864-0804 アドレス：senmon-i@jaclp.org

【若手が望む臨床検査医学会(学術集会)のあり方 「臨床検査を学ぶ若手医師の集い」から】

日本臨床検査医学会教育委員会
小谷和彦, 山田俊幸
日本臨床検査専門医会教育研修委員会
菊池春人

第 4 回「臨床検査を学ぶ若手医師の集い」が、第 62 回日本臨床検査医学会学術集会(平成 27 年 11 月 21 日、岐阜)の特別企画として開催された。企画運営に係わる臨床検査専門医とともに 16 名の若手医師が集い、時間を共にした。

今回は、「若手が望む臨床検査医学会(学術集会)のあり方」について、若手医師の声を直に聴く機会を設けた。グループワーク方式で全若手医師の発言を得て、複数みられた声をまとめたのが下表である。

表 若手が望む臨床検査医学会(学術集会)のあり方

1. 初心者または専門医取得向けのセッションの実施
(含 研修方法)
2. 専門医取得後のセッションの実施
(含 キャリアの例示)
3. 実地・ハンズオン式セミナーの実施
(例 病理、骨髄像、超音波検査)
4. レベル別の企画設定
(演題の内容が極めてピンポイント過ぎるため)
5. 学会の方向性を提示するような企画設定
(演題の扱う領域が多様なため)
6. 仲間作りを促進するイベントの開催
(相談相手を見つけにくい)

いかがであろうか。昨今、他学会の様子を見聞してみても、学会のあり方は次世代を担う若手を育成するという観点を含

めて議論されている。この意味で、全ての若手の声を拾ったわけではないとは言いながらも時宜を得た資料が得られたと考える。全般にみて、専門医に関する声は多く伺えた。新専門医制度に対する関心の高さの現われである。意外にも(当たり前過ぎて?)リサーチ(の仕方や内容)自体に関する声は少なかった。

今後、どのような企画やイベントを打ち立てていくのかについては更に突っ込んだ話し合いが必要ではあるが、若手はひとまず声を発した。そして、本会に参加したベテランにとっても学会について考える良い契機となった。若手ベテランで相互に連帯して学会づくりの歩を進めるべきである。

【会員の声】

RCPC — もう一度ルーツを考えてください

Reversed Clinico-Pathological Conference(RCPC)がわが国で初めて公開されたのは、1965 年 1 月 23 日、日本臨床病理学会(現・日本臨床検査医学会)関東支部第 3 回例会で、その年度に 4 回開催されました。そして、初めて医学部の学生教育カリキュラム(講義とポリクリ)に取り入れたのは日本大学医学部臨床病理学教室(現・臨床検査医学)で、1967 年度からでした。それから徐々に医学生の教育に広まり、保健学科、薬科大学(一部)、さまざまな医師会、技師会の研修会、そして日本臨床検査医学会、日本臨床検査専門医会の年会や支部総会などでも広く採用されています。RCPC を導入する切っ掛けを作った筆者としては大変嬉しく思っています。ただ、一つ心配なことがあります。それは略称が統一されていないことです。CPC は、臨床病理検討会として日本語も略称も定着しています。RCPC については、最初に公開したときは R.C.P.C. としましたが、その後は英語圏での慣習に習って RCPC とピリオドを省略し、RCPC に関する最初の単行本「演習臨床病理学」(土屋・河合・河野編：中外医学社、1973 年)でも RCPC としました。その後、いつころからでしょうか、1990 年代、筆者が定年退職する頃(?)ですが、Reversed-CPC、R-CPC と R の後にハイフンが挿入される論文が目につくようになりました。詳細に検索していませんが、いつ、どなたが、どのような意図で R-CPC を使われるようになったのかは今となっては明確ではありません。とくに、プレゼンテーションの内容が変わったようにも思えないのですが、最初は、単純に印刷上の誤植でしょう、と軽く考えていたのですが、近年 R-CPC と書かれている出版物が増えてきたように思います。筆者は既に定年退職して 19 年余を経過し、自分が RCPC でプレゼンテーションをする機会はありませんでしたが、会員の皆さんにもう一度 Reversed CPC の略称を統一するように議論してみませんか。宜しくお願いします。「臨床病理」63：1161～1168, 2015 も参照して下さい。

(名誉会員・国際臨床病理センター 河合 忠)

私というペルソナ

平成 27 年度の臨床検査専門医試験に合格し新たに専門医となりました山口勇人と申します。私は平成 19 年に東邦大学医学部を卒業し縁があって臨床検査の道へと入りました。

臨床検査専門医の中ではかなりの若手なのではないかと思っております。

臨床検査専門医はある程度臨床をやってきた先生が検査への理解を深めていくうちに取得することになった。そういう方が多い印象があります。

しかし、臨床検査専門医は日本専門医機構が認定する 19 の基本領域のうちの 1 つに認定されてしまいました。さらに基本領域の専門医は基本的に 1 つしか取得できません。

今までは、臨床医として活躍し各々の分野の専門医を取得したのち臨床検査専門医を取得する。そのような先生方が多かったのではないかと思います。これからは初期研修後にいきなり臨床検査医学の専攻医となります。

さて表題のペルソナですが、これはペルソナマーケティングとも呼ばれている手法で企業などで実際に自社の商品やサービスを使ってくれるであろうモデルユーザー(ペルソナ)を作り出し、そのユーザーのニーズを満たすような形で商品やサービスを設計するというマーケティング手法です。

上記の説明に現状をあてはめますと企業=各学会、商品=専門医、モデルユーザー(ペルソナ)=初期研修医ないし専攻医となります。

もう 1 度表題ですが「私というペルソナ」。私は自分で言うのもなんですが若手で臨床検査専門医以外の専門医を取得しておりません。つまり私は新専門医制度における専門医に非常に近い立場にいるのではないかと思います。

マーケティングにおける成功とは大量の顧客を獲得し利益をあげることです。顧客の獲得を後押しするのは、商品の購入によって変化するであろう明確な将来のビジョンです。サブスペシャリティである臓器別の専門医は、これがとてもわかりやすい。基本領域である内科専門医を取得後、自分が所属する医局の専門とする領域を研鑽し世の中に羽ばたいていきます。このわかりやすさは武器だと思います。

さて「私」は臨床検査専門医を取得したのちどうすれば良いのでしょうか？

自分で考えろ！と思った先生、非常にもっともだと思いません。

先程も述べましたが商品=専門医の取得により自分がどのような道をたどるのが明確に理解できるのは武器です。

臨床検査専門医は一般的な知名度のみならず医師の中でも非常に知名度が低く、現状のままではサブスペシャリティの取得も困難です。もちろん検査一本で生きていく道はあるでしょう。特に検体管理加算Ⅳをとっている病院では重宝されると思います。

しかし、それでは商品の使い道が非常に限定的でありとても初期研修医の購買意欲をそそるようなものではないように思われます。

臨床検査医学そのものは横断的な学問であり、日常臨床の様々な場面で出番があります。ですがそれを学んだ先に活かす場が誰にでも明確にわかるように用意されていない用途の分かりにくい商品であるならば、それよりも活躍の場が容易に想像できる分かりやすい商品を手に取るのが自然な流れになるのではないのでしょうか。

現段階でサブスペシャリティとして検討されているのは超音波専門医、臨床遺伝専門医、人間ドック健診専門医です。これらの商品も非常に価値のあるものですがもっとわかりやすい商品があると顧客の獲得がより容易になるのではないかと思います。

例えば臨床検査専門医試験は一般臨床検査学・臨床化学、臨床血液学、臨床微生物学、臨床免疫学・輸血学、臨床生理学の分野から出題されます。

これらに関連する商品のラインアップとして血液専門医、感染症専門医、リウマチ専門医、内分泌専門医あたりを加えると初期研修医の臨床検査専門医という商品への興味も沸いてくるのではないかと思います。

新専門医制度において臨床検査専門医は「検査の専門医」ではなく「臨床と検査の専門医」となることが求められるようになるのではないかと考えております。

(昭和大学横浜市北部病院臨床病理診断科 山口勇人)

臨床検査専門医会の先生方への感謝と自己紹介

大学所属医師としての臨床検査医学の研修をしてないので受験資格がないのではと以前言われたことがあり、試験もぎりぎりまで通過(特に血液学)した私が書くのは恐縮ですが、編集長を始めお世話になった先生方々へのお礼の意味で寄稿させていただきます。

私は 2009 年に複十字病院臨床検査部に配属となった際、日本臨床検査医学会に続き、研修を受ける為に専門医会にも非専門医会員として入会しました。まずは、2010 年 4 月に八重洲で開催された第 7 回 GLM 教育セミナーに参加しました。セミナー運営を担当された宮地勇人先生が終了後に懇親会を開いてくださり、グループワークもあったので、同じ班の富山大学の仁井見英樹先生や慈恵医科大学の松浦知和教授と親しくなる事ができました。

次に、2010 年 5 月に順天堂大学であった講義形式の第 77 回教育セミナーに参加し、同年 11 月の臨床検査管理医セミナーで管理医資格は取得する事ができましたが、同時に専門医を目指すようにとアドバイスされました。実技研修として、自治医科大学での教育セミナーに 2011 年、2012 年と 2 年連続参加して、山田俊幸教授には多大にお世話になりました。すでに臨床検査専門医を取得されていた日本大学医学部の中山智祥教授も参加されていたので出会えました。どんどん研修セミナー参加者の皆様が専門医に合格していかれましたが、会う度に強く励まして貰いました。臨床検査教育セミナーは 2013 年より慶応大学で講義と実技をまとめてされる様になりましたが、菊池春人先生に 3 年間お世話になりました。

専門医会春季大会に盛岡(第 21 回)、山口(第 22 回)、札幌(第 24 回)と参加しました。2011 年 7 月の盛岡では、震災直後の緊迫した状況を高橋智先生から聞いたのがとても印象深かったです。山田俊幸教授に、山口での懇親会の際に、カリキュラムの習得は大学が基本ではあるが、自身の病院での研修をしながら大学に定期的に行く事で資格に到達した事例を教えて戴き、臨床検査医学の勉強研修の記録を始めました。

実際の研修は清瀬から通いやすい(小竹向原駅から裏道で 20 分)日本大学医学部および附属板橋病院にお世話になりました。医学部 5 年生用の BSL、4 年生用の検査診断学実習(実習テキストは教科書にもなる厚さで練習問題もあり勉強になり、作られた先生方に感謝致します。)、他に臨床検査部勉強会や当院のピロリ菌呼気検査導入に伴う臨床検査実施見学、BRCA1/2 遺伝学的検査での遺伝カウンセリング陪席等、様々な勉強をさせて戴き大変感謝しております。今は客員研究員として実習の手伝いに行き、学生さんの質問にも少し答える様にしております。

教科書として、臨床検査医学はセミナーでお世話になった上記の先生方や長崎大学の同級生だった東京医大・松本哲哉教授が執筆されている標準臨床検査医学を使い、臨床検査専門医卒後研修カリキュラムのワードファイルを作り、日々の臨床検査部勤務で経験した事を書き込む勉強を続けました。受験資格でも重要な、臨床検査部の日常業務記録は特に力を入れたので、必要以上の枚数を送ってしまいました。実習も臨床検査技師さんに頼み、不規則抗体 E 試薬を入れた試験管を作ってもらうなど協力をして貰い、何度も繰り返し学びました。実際の臨床では、尿のイムノクロマト検査の結果が先

で、肺炎球菌を想定してバーミー法の脱色しない様に注意しながらグラム染色をする様に POCT の重要性を感じました。今年からは、5 択問題が出題されるとのことでしたので、臨床検査技師の国家試験問題を解いてみましたが技術的に細かく、簡単ではありませんでした。医師国家試験問題をしてみると、卒業時程は無理ですがまだ 7 割近く取れたのが嬉しかったです。合格者は全員が専門医会会員の様ですが、セミナー等で一緒になり同じ日に試験を受けた方々にもお礼を書きたいと思います。

合格できたので病院から時間を貰い、米国人類遺伝学会を理由にボルチモアの母校に久し振りに行きました。ニューヨークの HIV 感染者のケア施設等で多剤耐性結核が蔓延した 1991 年に渡米したので、1989 年のマヒドン大学修士時代に経験したタイの HIV 蔓延により同様な結核問題が起こるのは必然と考え博士課程のタイ人クラスメイトと北タイのフィールドで 1993 年より研究しています。臨床検査部に所属になったのを活用し、日本の複十字病院でも並行した研究をはじめました。東京大学 徳永教授にお世話になりながら菌体とヒトの両方のゲノム解析を、タイと日本で進めて、日本臨床検査医学会学術集会等で発表しております。

【http://www.jst.go.jp/global/kadai/h2608_thailand.html】

専門医機構の影響下で、更新はきちんと臨床検査医師としての活動をしていないといけな制度なので、また気を引き締めて日々頑張りたいと思います。宜しく願い申し上げます。

(公益財団法人結核予防会複十字病院臨床検査部 野内英樹)

臨床検査専門医として

岐阜で開催された日本臨床検査医学会学術集会における「臨床検査を学ぶ若手医師の集い」に、今年是新・臨床検査専門医として参加することができました。ちょうど 1 年前、同集いに初参加し、専門医会の先生方の熱い想いに触れ、帰りの新幹線で専門医試験受験を誓ったことが感慨深く思い出されました。

私は平成 13 年鹿児島大学卒業後、旧第 2 内科で 3 年研修ののち、広島大学原爆放射線医科学研究所血液内科に入局いたしました。その後、総合内科専門医、血液内科専門医を取得し病院勤務を続ける中で、第一子、第二子を出産しました。近年、女性医師が仕事と育児の両立を図り就労しやすい環境を整備するため、医師会、学会等、女性医師支援の取り組みはさまざまな形で行われています。私自身も医局から関連病院の外來勤務を紹介していただいたり、病院内の保育室や育児時間制度を利用させていただいたり、多くの育児サポートを受けながら休職することなく血液内科医を続けてきまし

た。しかし、ライフイベントを経験する中での実際の最大の悩みは、24 時間を患者のためだけに使えなくなったこの先、自分が患者に、医療に、どのような形で貢献できるかといった点でした。そこで、これまで携わってきた血液・骨髄像診断を入口として、臨床医の診断をサポートする立場から患者貢献をしようと、「検体検査管理加算Ⅳ」取得条件となる専従医師に転向し臨床検査の道を歩み始めました。学会シンポジウムでご講演された聖隷浜松病院米川修先生の「検査医(けんさい)＝賢妻である。夫(臨床医)に働きやすい環境を整備することで、両者が協力成長し合い健全な子供の育成＝患者貢献をすべきであろう」という言葉は、当時の私にとって家庭でも職場でも胸を張れる働きをと奮い立たせてくれるものでした。

臨床検査部副部長として、検査データを介した診療支援を軸に、オーダー画面やパニック値管理など臨床のニーズにより適したシステム作り、技師のよろず相談役などに努めて 4 年目となり、ようやく院内でも検査部にいる医師として認識されるようになってきました。しかし広島県での「臨床検査専門医」の認知度はいまだ低いと言わざるを得ません。そもそも広島大学には現在臨床検査医学講座がなく、広島県内の臨床検査専門医はわずか 13 名、そのほとんどは病理専門医としても多忙な先生方です。新専門医制度では、基本領域として初期研修終了後の医師を検査専門医へ導く教育指導が求められます。数少ない研修施設、医師間で協力し合い、個々が活動実績、診療実績を地道に積んでいながら、後に続く検査専門医を大事に育てていかねばなりません。抱える課題は大きいですが、臨床検査専門医会の先生方とのネットワークを大事に、ご指導を仰ぎながら、広島の一臨床検査専門医として気持ち新たにスタートしたいと思います。

会員の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

(広島市立広島市民病院臨床検査部 三好夏季)

【編集後記】

今号の「会員の声」では、名誉会員の河合忠先生より、「RCPC」の略称の統一に関する貴重なご提言を賜りました。河合先生が RCPC を始められた経緯については、JACLaP WIRE 22 号(2000 年)にも掲載されております。

(http://www.jaclap.org/wire/No_0022.html)

略称について、今一度考える必要があると思いました。

巻頭言は藤原久美先生に、「会員の声」は 4 名の先生からご寄稿いただきました。ご寄稿いただいた先生方に、心より厚く御礼を申し上げます。

(編集主幹 東京大学医学部附属病院検査部 増田 亜希子)

日本臨床検査専門医会

会 長：登 勉、副会長：東條尚子(渉外委員会委員長)、本田孝行

監 事：高木 康、佐守友博

常任幹事：木村 聡(広報委員会委員長)、佐藤麻子(全国検査と健康展担当)、土屋達行(資格審査・会則改定委員会委員長)、古川泰司(保険点数委員会委員長)、三宅一徳(庶務・会計幹事)、宮崎彩子(ネットワーク運営委員会委員長)、盛田俊介(情報・出版委員会委員長)、米川 修(教育研修委員会委員長)

全国幹事：浅井さとみ、五十嵐雅彦、上原由紀、大澤春彦、萱場広之、久川 聡、紀野修一、ㄨ谷直人、長井 篤、中村文彦、橋口照人、日高 洋、増田亜希子、松下一之、村田哲也、柳原克紀、横崎典哉、和田隆志

情報・出版委員会：

委員長：盛田俊介

委 員：出居真由美、清水 力、信岡祐彦、福地邦彦、増田亜希子、盛田俊介、吉田 博

日本臨床検査専門医会事務局

〒101-0027 東京都千代田区神田平河町 1 番地 第 3 東ビル 908 号

TEL：03-3864-0804 FAX：03-5823-4110 E-mail：senmon-i@jaclp.org